

調査・事例収集の中間報告② 都市の潜在的移動希望者に対する調査

(1)調査の概要

- ・ 移動ニーズの顕在化を阻害している要因や今後の課題等を分析するために、都市の潜在的移動希望者等へのインタビューを通じて実例を収集した。
- ・ 具体的には、地方自治体が実施している体験ツアー等への参加者から移住・二地域居住等の希望者を抽出して、インタビューを実施。
- ・ インタビュー件数は4件。そのうち1件は、東京にある移住・二地域居住に係る総合情報センターの相談窓口担当者。個別の事例は別添個票のとおり。

(2)ヒアリング結果のポイント(相談窓口に聞いた一般的な傾向)

①移動の目的

- ・ 家庭菜園や自然を楽しむスローライフ派が中心。仕事で稼ぐことは目的としていない方が多い。

②移動地域の選択理由

- ・ 相談時に移動先を決めている場合の理由は、親の介護問題、Uターン、地域への思い入れなど。
- ・ 相談時に移動先を決めていない場合の理由は、自然環境や気候、交通の利便性など。
- ・ 最終的には、住宅と仕事、地域の受入担当者の親身なお世話がカギになる。

③移動までのプロセス

- ・ 相談者の4割程度は体験ツアー等を利用して現地を確認している。

④移動にあたっての問題点

- ・ 積雪は避けたいという意向が強い。
- ・ 生活利便性や行政サービスはあまり重視されていない。医療・介護も決定的な要因とはならない。
- ・ 必要なのは観光情報ではなく、生活情報である。

⑤行政への要望と提案

- ・ 自治体のメニュー(農業、生活一般、医療・介護など)ごとの窓口がどこか明確にして欲しい。

(3)ヒアリング結果のポイント(個人へのヒアリング結果)

①移動の目的

- ・ 家庭菜園と趣味活動で自然を満喫したいとの意向が多い。
- ・ 仕事はほどほどに年金暮らしを基本としている。

②移動地域の選択理由

- ・ 観光したことがある、地縁がある等で地域の環境を知っていることが基本となっている。

- ・ そのうえで、自然環境が良く田舎暮らしが楽しめる、交通の利便性がよい、雪が少ないことなどを理由とする方が多い。
- ・ そのほか、親の住居に近い、物価が安い、都市機能(仕事)があるなどがあげられている。

③移動までのプロセス

- ・ 総合相談センターや田舎暮らしの本で情報を集めるところからスタートしている。その後、体験ツアー等を利用して現地を何度か視察する。
- ・ 現地との交流は安心感を得るのに有効との声がある一方で、それだけでは本音が聞けないので、知り合いに聞くことが有効との声もある。
- ・ 移動の最初は家を借りて(もしくは二地域居住で行ったり来たりしながら)現地を理解してから家を購入するという方が多い。

④移動にあたっての問題点

- ・ 車が運転できる 70 歳位までは生活利便性は気にしないという方が多い。
- ・ 現地とのつながりを深くすることによって、空き家等の不動産情報を継続的に入手できるようになった方もいる。
- ・ また、親が病弱なのでそのケアをどうするかが問題となっている方もいる。

⑤行政への要望と提案

- ・ 通り一遍の情報ではなく、生活の実態まで分かるような情報を一元的に管理して提供してもらいたいとの希望が多い。それらの情報に利用者がアクセスするのではなく、メールマガジン等で定期配信してもらえると良いという意見もあった。また、仕事(就業)情報ではない農繁期の手伝いやスポット的な事務等の地元で馴染まなければ入手できない情報が欲しいという意見もあった。
- ・ 移動失敗者の体験談や移動するまでの手順が分かるような移動するまでの体験談も聞きたいとのニーズもある。
- ・ 地域がどんな人に来てもらいたいのか明確にってもらえると、無用に遠慮することもなくなる。

ヒアリング結果一覧

質問項目		No.② (相談窓口に聞いた一般的な傾向)	No.②	No.③	No.④
①属性	年代	50歳以上7割、50歳未満3割	夫50代後半、妻50代後半	夫50代、妻50代	夫50代半ば、妻50代半ば
	世帯構成	夫婦での相談が半分	子供2人は独立	子供なし	子供1人は学生
	出身地	-	夫婦とも東北地方	夫:神奈川県、妻:北海道(5歳まで)	夫婦とも東北地方
	現住所	首都圏在住者が多い	神奈川県横浜市	神奈川県横浜市	千葉県船橋市
	職業	定年を控えた社員が大多数	夫は1年前に早期退職、妻はパート	夫は会社員、妻はフリー	夫は会社員、妻は無職
②移動先での暮らし方	移動形態	二地域居住から定住へ移行するパターンが多い	Uターン定住	Iターン定住	Uターン定住
	移動先	首都圏近郊の希望が多い	福島県	北海道	福島県
	住居形態	最初は賃貸で購入に移行するパターンが多い	一戸建て家庭菜園付き住宅を借りる	庭付きの一軒屋(賃貸の後、購入)	まずは借りて生活を試す
③移動を考えたきっかけと移動の目的		定年退職をきっかけとする方が多い。家庭菜園や自然を楽しむスロライフ派が中心。仕事で稼ぐことは目的としない	定年退職と親の介護問題がきっかけ 家庭菜園と趣味活動で自然を満喫したい。年金暮らし。	夫の定年退職と妻の健康問題(アレルギー体質) 家庭菜園と趣味活動で自然を満喫したい。	定年退職をきっかけにすぐにも移住したい。 自然に親しみながら家庭菜園等を楽しむ。
④移動地域の選択理由		相談時に移動先を決めている場合の理由は、親の介護、Uターン、地域への思い入れ 相談時に移動先を決めていない場合の理由は、自然や気候、交通の利便性 最後は住宅と仕事、受入担当者の親身なお世話がカギ	親の介護問題と地縁 場所の絞込み要因は①田舎暮らしを楽しめる、②親の住居に近い、③雪がない、④居住関係の価格が安い。	①地縁(親戚・友人が多い)、②その地域のファン、③妻のアレルギー体質 場所の絞込み要因は①札幌のような都会は避ける、②雪が少ない、③交通の利便性、④都市機能(仕事)、⑤生活環境が分かる。	出身地であり環境を良く知っている。 場所の絞込み要因は①自然環境がよい、②雪がないことを重視する。
⑤移動開始までのプロセス		相談者の4割程度は体験ツアー等を利用して現地を確認	ここ1年間で下見を4-5回したが、体験ツアーへの参加は有意義。 地元住民と先行移動者との交流で安心感。	ここ2-3年のうちに仮の拠点を構えて、行ったり来たりしながら本格的に住宅を探す。現地情報は知り合いから入手するほか、体験ツアーに参加。	総合相談センターや田舎暮らしの本で情報を集めている。
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法		積雪は避けたい意向強い。生活利便性や行政サービスは重視されず。医療・介護も決定要因とはならない。必要なのは観光情報ではなく、生活情報。	雪は避けたい。車で1時間圏内に病院やスーパーがあればよい。現地との繋がりができたので空き家情報等を定期的に通ってくれる。	体験ツアーでは本音が聞けないので、移動の候補地は知り合いのいる所に偏りがち。親が病弱なのでそのケアをどうするかが問題。	生活できる範囲の収入があればよい。車が運転できる70歳位までは生活利便性は心配ない。地域とのしがらみが行ってみなければ分からないのが困る。
⑦国・自治体に対する要望		自治体のメニューごとの窓口の明確化	ネットによる一元的な情報提供 地元のならではの情報提供(農繁期の手伝いやスポット的な仕事など) 地域がどんな人に来てもらいたいのかを知りたい。 移動先の不動産の売却等の流通スキームを構築して欲しい。	生活レベルの情報が欲しい。体験ツアーも生活を実感できる内容に。 情報の一元的な管理とメールマガジン等による配信 移動失敗者の体験談や移住するまでの体験談を聞きたい。 情報提供から移動実行までのトータルな支援。	不動産情報、空き家情報に一戸建て・民間住宅の賃貸情報を充実して欲しい。 多様な地域の情報を揃えてもらいたい。

№. ①（相談窓口担当者に聞いた一般的な傾向）

質問事項	回答
①属性	<p>50歳以上が約7割、50歳未満が約3割 夫婦での相談が約半分（女性だけの相談も多い） 職業：定年を控えた社員が大多数</p>
②移動先での暮らし方	<p>二地域居住から始めて定住に移行するパターンが多く、 住宅も最初は賃貸で、後で購入に移行する方が大半。 家庭菜園や自然を楽しむスローライフ派が中心。仕事を 希望しても稼ぐことを目的とはしない。</p>
③移動を考えたきっかけと移動の目的	<p>定年退職をきっかけとする方が多い。50歳未満では転職等 で生活スタイルを変える場合。</p>
④移動地域の選択理由	<p>首都圏近郊の希望が多いが、相談時に移動先を決めていな い場合が約6割、決めている場合が約4割（→決めている 理由は親の介護、Uターン、その土地への思い入れ）。 その他の選択要因は自然や気候、交通の利便性など。 <u>買い物、病院などは決定的な要因とはなっていない。</u> 最終的には①住宅と仕事が決まること、②受入担当者の親 身なお世話が決定要因となる。</p>
⑤移動開始までのプロセス（現状）	<p>窓口を訪れる相談者の4割程度は体験ツアー等を利用して 現地を確認。</p>
⑥移動検討にあたっての問題（克服方法）	<p>気候はポイントになる（積雪を避けたい意向が強い）。 <u>生活利便性や行政サービスは重視されていない。</u> <u>医療・介護は重視されているが決定要因ではない。</u> コミュニティに馴染めるかどうかは事前に現地と交流し てみるのが重要。 <u>仕事を条件とする方は少ない（定年後は年金暮らし）。</u> <u>欲しいのは観光情報ではなく生活情報である。</u></p>
⑦国・自治体に対する要望	<p>各地域・自治体は、メニュー（農業、生活一般、医療・ 介護など）ごとの窓口がどこか明確にして欲しい。</p>

No. ②

質問事項	回答
①属性	<p>年齢：夫 50 代後半、妻 50 代後半（子供 2 人は独立） 職業：夫は 1 年前に早期退職、妻はパート 出身地：夫婦とも東北地方／現住所：神奈川県横浜市</p>
②移動先での暮らし方	<p><u>家庭菜園と趣味活動で自然を満喫したい。</u> 収入のために仕事はしたいが見つからないので、年金の範囲内で暮らす。 一戸建ての家庭菜園付き住宅を借りる。</p>
③移動を考えたきっかけと移動の目的	<p><u>定年間近になったことと親の介護問題。もともと田舎暮らしはしたかった。</u></p>
④移動地域の選択理由	<p><u>親の介護問題があるので福島県と決めた。観光で何度か行ったことがあるので大体のことは分かる。</u> さらに<u>場所を絞り込むための要因は、①田舎暮らしを楽しむこと、②親の住居に近いこと、③雪がないこと、④居住関係の価格が安いこと。</u></p>
⑤移動開始までのプロセス（現状）	<p><u>ここ 1 年間で現地の下見に 4-5 回行った（季節ごとの違いもみるため）が、体験ツアーへの参加は大変役立った。</u> <u>地元住民や先行移動者との触れ合いで安心感を得、地元が暖かく迎えてくれることが分かった。個人で訪問してもこのような機会に出会うことはあり得ない。</u></p>
⑥移動検討にあたっての問題（克服方法）	<p>気候については<u>雪だけが問題。</u> <u>生活利便性は車で 1 時間圏内に病院やスーパーがあればよい。行政サービスの格差も気にならない。</u> <u>現地の方との繋がりができたので、ご好意で空き家情報等を継続的に送ってきてくれる。</u></p>
⑦国・自治体に対する要望	<p>土地をただで提供してくれる地域、住宅リフォームに助成してくれる地域、公営住宅を貸してくれる地域等があると聞くが、<u>ネットで一元的に情報提供して欲しい。</u> 仕事情報ではない農繁期の手伝いやスポット的な事務等の地元に馴染まなければ入手できない情報が欲しい。 <u>地域がどんな人に来てもらいたいのか知りたい。それが分かれば安心して行くことができる。</u> <u>移動先を買った不動産の転売や活用などができるスキームの構築をお願いしたい。</u></p>

No. ③

質問事項	回答
①属性	<p>年齢：夫 50 代、妻 50 代（子供なし） 職業：夫は会社員、妻はフリー 出身地：夫は神奈川県、妻は北海道（幼児期のみ） 現住所：神奈川県横浜市</p>
②移動先での暮らし方	<p>家庭菜園と趣味活動で自然を満喫したい。地元との交流には積極的に関わりたい。庭付きの一軒家を希望。</p>
③移動を考えたきっかけと移動の目的	<p>夫の定年退職が近づいてきたことと妻の健康問題（アレルギー体質）</p>
④移動地域の選択理由	<p>北海道に決めている。その要因は、①地縁：親戚や友人が多い、②観光旅行を通じてファンになった、③妻がアレルギー体質であること。 北海道内でさらに絞り込む要因は、①東京と同じなので札幌は避ける、②雪が少ない、③交通の利便性がよい・空港から近い、④都市機能がある（仕事がある）、⑤生活環境が分かる（分からなくても知り合いが教えてくれる）こと。</p>
⑤移動開始までのプロセス（現状）	<p>ここ 2-3 年のうちに北海道に仮の拠点（賃貸）を構えて、行ったり来たりしながら本格的な住宅（購入）を探す。現地情報の入手は知り合いから。知り合いのいない所は体験ツアーに参加するなどして情報集めている。</p>
⑥移動検討にあたっての問題（克服方法）	<p>収入のための仕事をしたい。気候は雪だけが気になる。買い物は車で行ける範囲にあれば問題ない。体験ツアーではやはり本音のところは聞けないので、移動の候補地は知り合いのいる所に偏りがち。親が病弱なのでそのケアをどうするか問題が残る。</p>
⑦国・自治体に対する要望	<p>自治体が提供する情報は幅広いが深みがない。スーパーの商品価格等の現地の生活レベルの情報がもらえない。体験ツアーも生活を実感できる内容にして欲しい。情報には自分からアプローチしなければならない。情報を一元的に提供してくれる仕組みやメールマガジン等による配信をお願いしたい。 先行移住者の暮らしぶりとともに失敗者の体験談を聞きたい。また移住するまでの体験談を聞きたい。 情報提供から移住実行までのトータルな支援が欲しい。</p>

№. ④

質問事項	回答
①属性	<p>年齢：夫 50 代半ば、妻 50 代半ば（子供 1 人は学生） 職業：夫は会社員、妻は無職 出身地：夫婦とも東北地方 現住所：千葉県船橋市</p>
②移動先での暮らし方	<p>自然に親しみながら家庭菜園などで畑を耕しながら生活したい。月 1 回程度共同作業に参加するなど、地域とは程好いお付き合いをしたい。</p>
③移動を考えたきっかけと移動の目的	<p>定年退職をきっかけにすぐにも移住したい。千葉は引き払って完全に移住する。</p>
④移動地域の選択理由	<p>出身地であり環境を良く知っているので福島県に決めている。やはり田舎暮らしがしたい。 福島県のなかでは、①自然環境が良く四季がはっきりしていること、②雪がないことを重視する。</p>
⑤移動開始までのプロセス（現状）	<p>総合相談センターや田舎暮らしの本で情報（不動産、地元行事、暮らし）を集めている。家は、地域との付き合い方もあるので、まずは借りて生活を試したい。</p>
⑥移動検討にあたっての問題（克服方法）	<p>仕事は見つかっていないが、生活費は東京の半分以下でよいので生活できる範囲の収入があればよい。 生活利便性については車が運転できる 70 歳位までは心配ない。70 歳以降のことも考えれば公共交通機関の充実が必要だ。 地域とのしがらみが嫌で地域を出ている人もいと聞く。集落の慣習など行ってみないと分からないのが困る。</p>
⑦国・自治体に対する要望	<p>不動産情報、空き家情報に一戸建て・民間住宅の賃貸情報を充実して欲しい。 いろいろな地域の情報を一元的に揃えてもらいたい。</p>